

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	10 月	17 日	記入者	春日由広
調査者名	春日	仲谷			

文化財名	樟の巨樹				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1951年(昭和26)11月1日				
所在地	奈良市奈良阪町2398番地				
所有者 管理者	奈良豆彦神社				
員数	1株				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) 樟			(樹齢) 1000年	
案内板の状況	有り(2000年撮影の「樟の巨樹と親子のふれあい写真」や「翁舞」の写真も展示)。				
公開	常時(自由)				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	特に課題は無い。樟の巨樹は奈良豆彦神社の本殿裏に聳え立っている。清掃も行き届いており整然としている。樟に着くまでに数か所の案内板が設けられているので、迷うことなく到着できる。				
今後の課題	この樟は、樹高30m、幹回り7.5mで、地上約7mで南北に2つに分かれ、さらに北の枝幹は3m、南の枝幹は4mのところまで2つに分かれている。奈良豆彦神社の所有だが、周りに樹木や民家が立ち並び、枝の一部が切られていたが、厳かな雰囲気にも包まれ聳え立っている。今後も現状維持を希望する。				
その他 (由緒など)	奈良豆彦神社は光仁天皇の父の志貴皇子が病氣療養のため隠居していた平城山春日離宮の地であり、771年(宝亀2)に、その地に志貴皇子を祀ったことに始まる。樟の巨樹は、「志貴皇子の子の春日王が療養のため大木茂る平城山の一社(当社)に隠居さる」の伝説を裏付けている。毎年秋祭りの宵宮に当たる10月8日夜に奉納される「翁舞」は能楽の原典と言われ、2000年(平成12)に国の重要無形民俗文化財に指定された。				
コメント	樟は古くから、寺や神社の境内にもよく植えられており、神社では巨樹が見られ、ご神木として人々の信仰の対象とされている。この樟もご神木として住民の深い信仰を集めている。奈良豆彦神社は、「京街道」に面する古い街並みの中にある神社で、境内は整然と美しく保たれている。現在も、地域住民の信仰や協力を得て20年おきの遷宮が行われている。今後も「翁舞」や「樟の巨木」が保存継承されて行くことを希望する。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	10 月	17 日	記入者	春日由広
調査者名	春日	仲谷			

文化財名	樟の巨樹
------	------

説明版	案内板
-----	-----



樟を囲んだ親子の触れ合い写真(2000年8月1日)

本殿からの樟



樟全体の姿

神社の背後からの樟

